

友の会 会報

第57号

令和6年11月1日発行

編集・発行／愛媛県歴史文化博物館友の会

〒797-8511 西予市宇和町卯之町4丁目11番地2 TEL.0894-62-6222

会員特典

- ①歴史文化博物館の常設展・特別展を無料で観覧できます。
- ②友の会主催行事に参加できます。
 - ①研修旅行(年1回)
 - ②現地学習会(年2回)
 - ③歴史ウォーク(年1回)
 - ④クラブ活動(土器ドキクラブ、裂織クラブ、古文書クラブ、民俗クラブ)
- ③展示説明会に参加できます。
- ④「歴博だより」等の博物館情報をお送りします。
- ⑤季節イベントの材料費が割引になります
- ⑥博物館刊行物が割安で購入できます。

投稿

友の会では、会員の皆様からの原稿を随時募集しています。歴史や文化に関すること、あるいはクラブにおける発表内容をまとめたものの他、会員同士の交流の話や友の会に参加して感じたことや写真など、いつでも事務局へお寄せください。会報に掲載させていただきます。

令和6年6月16日(日)、令和6年度の愛媛県歴史文化博物館友の会理事会・総会を博物館で開催いたしました。



令和6年度友の会理事会・総会を開催

参加役員は上甲泰正新会長、船橋明彦前会長、山下平重新副会長、山本浩二理事、宇都宮とみ子理事、松川伸二監事、岩瀬恵子監事、松井慶介顧問、井上淳理事、多木紀隆理事です。

総会は15時15分から開催され、13名の方に役員改選、令和5年度事業報告・収支決算、令和6年度事業計画・収支計画等を可決・承認いただきました。

この結果、左の通り本年度の会員特典が決まりましたので、改めてお知らせさせていただきます。なお、本年度友の会事業内容について、随時、会員の皆様のお声を伺っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和6年度会員

友の会では、随時会員を募集しています。周囲に入会を希望される方がいらつしやいましたら、是非お勧めください。

入会方法は、①博物館へ直接お申し込みいただくか、②郵便局に備え付けの振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の区分など、必要事項をご記入のうえ、最寄りの郵便局で友の会の口座にお振り込みください。

家族構成	個人	小中高	会費(10月1日より半年分)
個人	2,500円		
一般	5,000円		
高校	5,000円		
1人	2,000円		
2人	5,000円		
3人	7,500円		



令和5年度研修旅行

新会長あいさつ 新会長 上甲泰正



愛媛県歴史文化博物館友の会の会長になりました上甲泰正と言います。私は西予市宇和町明石に住んでいるものです。宇和史談会という会の責任者を務めさせてもらっています。義兄の勧めで中世を調べてから江戸時代を見ていくと世の中の動きがわかっていくと言われ主に中世を中心に聞いていっています。中世と言われます世界観はヨーロッパでは土地をめぐる戦いに対して、日本では人をめぐる戦いであると言われています。中世の言葉に自力救済という言葉があります。どういうことかと言いますと、中世は武士が中心の世界ですので戦争が起こりますと、戦いは山ではなく平たい土地で行うため田・畑はめちやくちやにされています。元に戻してくれと領主をお願いします。でも領主は取り合ってくれません。そこで田・畑の持ち主たちは自分たちの力で修復しなければならぬのです。現在も自力救済という言葉は法律用語として

生きています。

戦いによって捕虜となった人たちは二東三文で東南アジア方面へ売られて行っています。その人数は2万人とも3万人とも言われています。その後彼らは自警団を結成し、かなり重宝されたとのことです。

一つの時代が終わりがやがて江戸時代を迎えるのですが人身売買はなくなりません。金貸し・借金のカタに売られて行っています。

話がそれてしまいましたが、愛媛県歴史文化博物館友の会は歴博の応援団と考えています。歴博という形があるかぎり未来永劫にわたり継続するものだと信じています。歴史を調べていくということは、私たちの未来に通じるものがあります。目まぐるしい動きの昨今ではありますが、一人でも多くの方に歴史に関心を持っていただき、歴博友の会に入会していただきまして歴博を支えていってほしいものだと心より願うものです。

また、歴博の館長さんをはじめとしまして、学芸員の皆様、伊予鉄総合企画というしっかりとした体制が整っています。学芸員の方々には宇和史談会も大変お世話になっております。歴博が企画されます各種イベントに出来るだけ多くの方が参加していただき、見識を広められ日々の生活を充実してほしいものだと考えます。

特別展

開館 30 周年記念

国絵図の世界～甦る正保伊予国絵図～

会期:令和6年10月19日(土)～11月24日(日)

幕府巡見使への対応として提出された寛永国絵図をはじめ、正保、元禄、天保の各時期の国絵図を一堂に展示します。なかでも令和4～5年度の2年間をかけて、住友財団の一部助成を受けて修復を行った正保伊予国絵図を初公開します。最先端の技術による修復の過程を紹介するとともに、展示と合わせて公開される高精細な絵図の画像を用いて、街道・海路などの交通情報や古城・名所旧跡などの絵図の描写に注目し、江戸時代前期の伊予の姿を探ります。

展示図録も併せてご用意しており、会員の皆さまは割引価格でご購入いただけますので、是非ミュージアムショップでチェックしてみてください。

特別展の展示期間は11月24日まで。ぜひご覧ください。



図録『国絵図の世界～甦る正保伊予国絵図～』
(価格1,700円(会員は1,400円))

博物館行事のご案内

開館記念日

開館30周年記念イベント

日時:令和6年11月9日(土)・10日(日)

愛媛県歴史文化博物館は平成6年11月19日に開館し、今年の11月で30周年を迎えます。11月9日・10日の両日は開館記念イベントとして恒例のお餅配りやお菓子配り、「はに坊のどんぐりマルシェ」に加え、みきゃんがお祝いに駆けつけてくれます！こども歴史館では開館記念限定の特別ワークショップも開催。観覧料も無料となっておりますので、ご家族やご友人をお誘いあわせの上、ぜひお越しください。



はに坊のどんぐりマルシェ

八幡浜市の歴史と文化―

金山出石寺〜保内の町並み〜八幡浜の町並み



金山出石寺にて

8月3日(土)に第1回現地学習会を実施しました。今回は八幡浜市の歴史と文化を学ぶことをテーマとして、金山出石寺、保内の町並み、八幡浜市街の町並み、八幡浜市美術館を訪れました。当日は11名の方にご参加いただき、博物館からは松井学芸員、事務局原崎、また講師として大本敬久愛媛大学地域協働推進機構准教授が同行しました。



保内川之石の町並み

気の中で境内を散策しました。大本氏の解説では、出石寺がある出石山は南予地方一の信仰を集めた山で、宇和島藩・大洲藩の境目にあることから、両藩から信仰を集めたとのことでした。境内の玉垣には近隣のみならず瀬戸内海の島々をはじめとした多くの地域の寄進者の名前が記されており、その信仰の広さを実感しました。続いて保内の町並みを散策しました。保内町川之石地区は瀬戸内海海運で発展した地域で、愛媛県内で最初に国立銀行が設置され、また四国で初めて電灯が灯った町



八幡浜 坂本歯科医院前にて

として知られています。町並み散策では大本氏の解説のもと、第二十九国立銀行記念碑や、現在西日本で唯一蚕種製造を行っている愛媛蚕種株式会社建物の建物、旧東洋紡績赤レンガ倉庫などを見学しました。

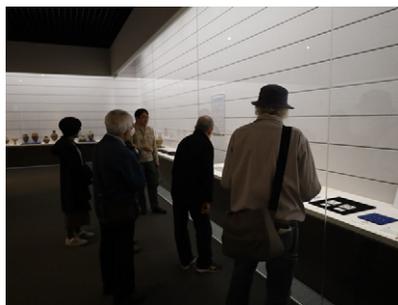
昼食後は初めに八幡浜市中心部の旧坂本歯科医院、菊池清治邸を見学しました。見学に際しては八幡浜見てみん會の森吉徳氏に解説をしていただきながら、実際に建物内に入らせていただき見学することができました。両方の建物について非常に詳しいご説明をいた

だき、また八幡浜市の歴史と併せて菊池家の果たした役割などを解説いただきました。参加者の方々も大変興味深い様子で聞いておられました。

見学後は八幡浜市美術館で特別展「色彩の秘密 巨匠たちのパレットと絵画」を観覧しました。観覧に際しては同館学芸員の井上千秋氏に解説していただきました。同展は笠間日動美術館が所蔵するパレットコレクションを展示したもので、画家が使用したパレットと絵画を併せて展示し、それらと作家の人物像を関連付けて解説した大変興味深い展示でした。パレットのコレクション自体が珍しいですが、井上氏によると笠間日動美術館は最も歴史がある西洋画商と言われる日動画商の創業者によって作られました。画商であるため絵画をコレクションするわけにもいかず、代わりにパレットの提供を依頼したことから始まり、それがコレクション化されていったとのことでした。

八幡浜美術館を見学したのち、八幡浜みなとで休憩をし帰路につきましました。各所で詳しい解説を聞きながらの見学に皆さん大変喜ばれている様子で、アンケートも好評でした。暑い一日でしたが皆様大変お疲れさまでした。

土器ドキクラブ



考古学(土器や石器、古墳や遺跡)に興味を持っている方を対象に、主体的に学習し、会員相互の親睦を深めていくクラブです。

日時:不定期

※令和5年度は2月25日(日) ヘルシー歴史ウォークとの共同開催で、「笠置峠ウォーキング」を実施し、笠置峠古墳などを当館学芸員の解説を交えながら見学しました。

裂織クラブ



裂織クラブでは、身近にある使わなくなった布を利用して、卓上織り機などを使って新たな布へと再生し、コースターやカバンなどの作品を制作しています。会員相互で教えあいながら、和やかにクラブを進めています。活動日には見学もできますのでお気軽にお越しください。

日時:主に第1月曜日と第4日曜日 9:00~17:00
場所:ミーティングルーム

民俗クラブ



民俗クラブは、愛媛の民俗に関する勉強会や実際に現地を訪れて学習会を行っています。

日時:不定期

※令和5年度は12月24日(日) 第2回現地学習会「佐田岬半島の歴史と民俗」との共同開催で佐田岬半島ミュージアムや二名津の町並散策を行うとともに、2月23日(金)には映画上映会として国立民族学博物館所蔵の民俗記録映像を上映、当館学芸員による解説を行いました。

古文書クラブ



古文書クラブは現在10名程度の人数でくずし字を読めるようにし、内容を理解した上で、その時代の雰囲気を感じられるよう活動を行っています。ちょっと難しいかもしれませんが、会員相互で教えあいながらゆっくりと学んでおりますので、興味のある方は気軽にご参加ください。年に1回、現地学習会も行います。(※今年度は未定)

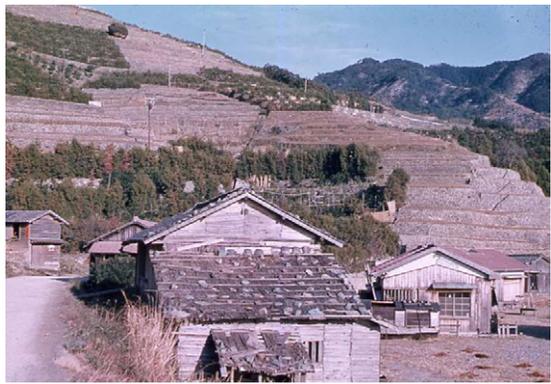
日時:主に第3木曜日 13:30~15:00
場所:第2ミーティングルーム

※各クラブについて、新しく参加を希望される方はお気軽に事務局までご連絡ください。

予告
特別展

宇和海のくらしと景観

会期:令和7年2月15日(土)~4月6日(日)



宇麦から柑橘に転換する段々畑(八幡浜市真網代、昭和34年、村上節太郎撮影)

愛媛県の宇和海沿岸部では、近世にイワシ漁が盛んになるとともに、リアス式海岸の急傾斜地を段畑として切り開き、芋・麦を中心とする農業が定着しました。近代に入ると、かまぼこ・じゃこ天の水産加工業、はまち・鯛・真珠の養殖業、柑橘栽培が産業として発展しました。本展では宇和海のくらしと景観に目を向け、そこで営まれる生業について、歴史資料や民俗資料で紹介します。展示を通じて、重要文化的景観「遊子水荷浦の段畑」、「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」、日本農業遺産「愛媛・南予の柑橘農業システム」にもなっている宇和海の魅力に迫ります。

賛助会員

宇和史談会、愛媛県歴史文化博物館 親睦会、えひめバス旅行有限会社、上甲耕三、西予市商工会、父田翔一、松前町史談会、山本浩二(敬称略)